

# Food-dependent exercise-induced anaphylaxis in Japanese elementary school children.

出典	Pediatr Int 2018;60(4):329-333 ( <a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/29341364/">https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/29341364/</a> )
著者	Manabe T et al.
調査地域	神奈川県横浜市
調査時期	2013年11月
調査対象	公立小学校
依頼数	348施設
有効回答数 または回収率	91.1%(317施設、170,146人)
診断方法	小学校教員の申告(医師の診断)
有症率	0.0047%(8人、FDEIAの有症率)
調査概要	横浜市の小学生におけるFDEIAの有病率調査。2012年に同地域で報告した中学生の有病率と比較して有意に低かった(0.0047% vs 0.018%)。原因食物では小麦が最多(n=4)で、大豆、果物、甲殻類、イカがそれぞれ1例ずつだった。